

第24回全国障害者スポーツ大会 「わたS H I G A 輝く障スポ」選手団派遣を振り返って

2001（平成13）年に第1回大会が宮城県で開催されて以降、24回を数えた今大会には、本県から個人競技35名を含む総勢75名の選手団を派遣した。

この大会は、競技等を通じて「スポーツの楽しさを体験」「国民の障害に対する理解を深める」「障害者の社会参加推進に寄与する」ことを目的として開催されていることに鑑み、競技力のみを重視するのではなく、できる限り初参加の選手に参加機会を与えるべく、約6割を初参加の選手で構成した。

役員については、各チーム（競技）とも、その競技に精通した指導者が核となり且つ、障がい者（スポーツ）に理解のある介助者等がサポートする体制を構築し、平均すると選手1.5人に対して1名以上の役員を配置し、本県選手団を派遣するにあたっては、選手、役員に対し派遣に係る基本方針を示した上で大会に望み、各競技ともその方針を基に大きな問題もなく、また怪我や事故等もなく、無事に派遣を終えることができた。

本大会への派遣は、例年通り、出発日に岐阜県庁で結団式を行い、多くの関係者に見送られて出発。

期間中は雨に降られる日があったものの、競技は予定通り行われ、結果、41個（金16、銀16、銅9）のメダルを獲得し、3つの大会新記録が生まれるなど、各選手はこれまでの練習の成果を遺憾なく発揮した。

また、これには、選手の決定から練習・合宿、本番に至るまで、競技役員の献身的なサポートがあり、各選手は、競技結果以上に多くのことを感じ、チーム岐阜の絆を深めることができた。

今後も継続的に行われるこの大会へは、本県から多くの選手が参加の機会を得られるよう努めるとともに、参加した選手にとって実り多き大会となるよう、選手選考から選手団の構成、強化練習や派遣前の準備、派遣期間中、帰岐までの課題も検証しながら、より一層意義深い大会派遣となるよう、議論を深めていきたい。

上記を踏まえ、次年度以降の大会派遣に役立てるため、次のアンケートにご記入のうえ、ご回答ください。

このアンケートは、今後の大会派遣の参考資料としますが、回答者は公表しませんので、自由闊達なご意見をお願いします。